

知多半島のつけ根に位置し  
伊勢湾に面するこの大地で  
わたしたちの祖先は道具をつくり  
食糧をとり  
家を建て  
豊かな実りを祈り  
死者をとむらい  
懸命に生きてきた  
そのあかしが  
文化財

この大地に思いを寄せて  
祖先の営みをふりかえったとき  
いま営みを続ける  
わたしたち一人ひとりの  
心に  
何か語りかけてくる

いま生きるわたしたちは  
何を残し  
何を将来に  
伝えていこうとするのか



東海市

#### 表紙の拓本の説明

万葉の歌碑をごぞんじですか。

あゆち瀉 潮干にけらし 知多の浦に 朝漕ぐ舟も 沖に寄る見ゆ  
平魚市瀉 塩干家良思 知多乃浦爾 朝榜舟毛 奥爾依所見

あゆち瀉 潮干にけらし 知多の浦に 朝漕ぐ舟も沖に寄る見ゆ  
万葉集巻七の「雑歌」の中の、「羈旅（旅）にして作れる」の第三首に  
ある歌（1163）で、

あゆち瀉は潮が引いたらしいよ。知多の浦を朝漕いでいる舟も  
沖の方へ寄って進むのが見える。

と詠んでいます。

いまから千数百年も前のある日、朝早くあゆち瀉をめざして出発しよう  
とする旅人の心をとらえた「知多の浦（東海市あたりの海岸）」の眺めをあらわしています。

この歌を刻んだ碑が、高横須賀町の諏訪神社に建っています。これは、  
近くに住む吉田定興という人が文化15年（1818）に建てたもので、古代に詠  
まれた歌を、江戸時代にあらためて思い起こし、歌の内容に最も適した土  
地に建てたものと思われる。

「文化財マップ」

発行：東海市教育委員会 社会教育課

〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地 ☎(052)603-2211  
☎(0562)33-1111

1994.3発行 2008.8改訂